

男女共同参画 × 多文化共生 ぴゅあフェスティバル 2024

—多様性を認め合い、自分らしく暮らせる山梨へ—

開催
しました

総合会場

令和6年12月14日(土)・
15日(日)に「男女共同参画×

多文化共生ぴゅあフェスティバル」を開催しました。昨年度同様、山梨県立国際交流・多文化共生センターとの共催で、主会場をぴゅあ総合とし、オンラインでぴゅあ峡南・ぴゅあ富士をつないでの合同開催で実施しました。今年は例年になく暖かい秋で、当日もこの時期にしては過ごしやすい気候でお天気に恵まれました。昨年度の反省を活かし、1日目と2日目でテイストを変えることで、男女共同参画推進センター・国際交流多文化共生センターに繋がるさまざまな団体の皆さまに、それぞれの立場や男女共同参画・多文化共生への理解度や活動内容等に合わせて参加するプログラムを選んでいただき、どなたにとっても「楽しい中にも学びのある」フェスティバルを目指して準備を進めてきました。

1日目の記念講演会では、映像ジャーナリストの伊藤詩織さんをお招きし、世界の国々で慣習として続けられているFGM(女性器切除)の取材を通して見えてきたジェンダー不平等や差別についてお話いただきました。伊藤さんの映像作品を鑑賞し、FGMの実態や命を落とす危険性、後遺症やそれを受けた女性のその後の人生にもたらす多大な影響等について知る機会となりました。実際にその地域に生きる女性たちの中にもFGMのあり方に疑問を感じていたり、なくなって欲しいと感じている方々が多くいるそうです。しかし、FGMを受けなければ結婚できない、一人前の大人として認められない等の「社会意識」があること、コミュニティの中で排除され、生きていけなくなってしまう現実があること…長い歴史の中で人々の間に根付いた意識を変えることができていない現状があるのだといいます。これは私たちが住む日本の社会の中での性別役割分担意識やアンコンシャスバイアス、慣習



た意識を変えることができていない現状があるのだといいます。これは私たちが住む日本の社会の中での性別役割分担意識やアンコンシャスバイアス、慣習

等とも通ずる話だと思います。人々の意識を変えるというのは簡単ではありません。長い時間が必要です。しかし、FGM根絶に向けた世界的プログラムの推進や国際社会全体での啓蒙活動の結果、少しずつ人々の意識に変化が見られ、FGMの減少にも繋がっていることから言えるように、課題に向き合い歩みを止めないことが大切だと感じました。



2日目は、ぴゅあ総合全館を使って「食と音楽と物販のダイバーシティフェス」を実施しました。昨年までは2階で行っていた「ステージ発表」は、せっかくの素晴らしい発表をもっと多くの方に観ていただきたいとの思いから、1階に特設ステージを設け、そちらで行いました。MCには、シンガーソングライターの岩崎けんいちさんをお迎えし、国籍や性別・年齢を超えてさまざまな方が連なり、インクルーシブなステージ発表となりました。その他、世界のグルメが集結した「ワールドグルメ」に、フェアトレード雑貨や手作り小物・アクセサリー等のここだけの一品が揃った「ぴゅあマルシェ」等、建物のさまざまなところでプログラムを展開し、多くの方に楽しんでいただきました。

昨年度以上に多くの方にご来場いただき、大変にぎやかな2日間となりとても嬉しく思いました。大人も子どもも、男性も女性も、日本人も外国人も、障がいのある方もない方も…さまざまな方が集いお互いの存在を知り、交流を深めることのできた素晴らしいフェスティバルになったと思います。催しを通し、男女共同参画推進センターと国際交流・多文化共生センターの活動や取組について触れていただく大変有意義な機会にもなりました。

